

リポート
MADE IN DISTRICT
～ガンバル産地グループ～

株式会社大阪繊維リソースセンター
チーフデザイナー 尾原 久永

昨今の繊維業界は、中国をはじめとする海外からの輸入品の急増による、産地空洞化現象が深刻化し、どの業界、産地も生き残るため必死に行動している。

大阪繊維リソースセンターが開業して9年経つが、その間の産地企業数の減少傾向は止まらず、当時から半数以下にまで減ってきている。産地の主たる企業が廃業、倒産を続けることにより、産地を支えている関連企業、例えば、綿織物産地ならば、サイジング工場や染色整理工場、縫い場といったところも仕事を続けられなくなってしまうのである。結果的に1つの製品を作り上げるための工程が産地の中で形成できなくなり、産地としての集積メリットもなくなり存続も断ち切られることにつながるのである。

そんな状況からか、最近グループ化という動きがどこの産地でも活発化してきている。同業種によるグループ化から、異業種による新商品開発のためのグループ化など数社がスクラムを組んで、足りない部分を補強しながらものづくりをおこなうのである。大阪南部の泉州織物産地にも早くからこうした動きをとっているグループがいくつか存在し、その影響力は少しずつ大きくなりだしている。

大阪南部の織物は600年以上の歴史がある古くから栄えた繊維産地である。始まりは室町時代の綿の栽培とそれを使った白木綿の製品で、江戸時代になると「和泉木綿」「河内木綿」の名が日本中に知れ渡り、全国から需要が集中した。以来、静岡、愛知、兵庫とならぶ国内の四大産地の一角を担い、綿ス織物産地の中心的存在として発展してきた。

しかし、輸出量や、国内生産量が減少し、輸入品が急増した今日においては、大阪織物産地の生産量は激減し、厳しい日々が続いている。もともと白生地での商売で発展してきた産地のために、商品力や開発提案力など、付加価値を付けることに非常に遅れをとり、それを何とかしなければ明日はないことに気が付き、6年前行動したのが「SSS会」(スリーエス会)である。SSS会は、今後の産地の危機的状況を乗り切るため、同じ志を持ちがんでいる2代目経営者達を集め、組合の枠を超えた情報交換、交流、勉強会などを自らおこない活性化しようと、大阪繊維リソースセンターがグループ創設の呼び掛けからおこない、泉州地域短繊維広幅織布業の若手経営者の有志13名によって6年前発足した。「泉州」「繊維」「サクセス」の頭文字から名付けてSSS会として活動をはじめたのである。毎月1回は必ず会合を持ち情報交換をおこなうことから始め、展示会出展や他産地との交流会や勉強会を積極的にこなし、今では染め加工業者も加わり、14名で活動している。

当初、通常の取り引きが生機中心であったため、SSS会は「白生地からの脱却」を図ろうと、染色加工や後加工などを含んだ完成品織物の開発、アパレル業者とのコラボレーション、ジャパンクリエーションなどの展示会への出展を数多くこなし、各企業ともその生産品の付加価値を高めてきた。

また、お互いの生産スペースの利用や加工の紹介などを積極的におこない横の連携を密にしたグループならではの付き合いもタイムリーにおこなっている。単一企業の取り引き先から入る情報は限られていても、14名のグループから集まる情報は広く、深いものになり、勝ち組になるための今後の動きに目が離せない。

一方、同時期に泉州地区にはもう一つのグループが発足している。「CS会」(シーエス会)である。SSS会と同様に発足から運営を大阪繊維リソースセンターが黒子として動いている産地グループである。CS会はもともと泉州織物工業協同組合青年部の小幅織布業者の若手経営者でサイジング業者を含む7名で発足し、現在では、染め加工業者などを巻き込み11名で活動している。CSの由来はCがコットン、クリエイティブ、Sは泉州、繊維、サクセスの頭文字。CS会のメンバーが取り扱う商品は、ゆかた生地や布おむつ生地、手ぬぐいといった、着尺生地が中心で、こちらも白生地主体の取り引きが続いてきた。SSS会同様「このままではいけない」とCS会では「二次製品への挑戦」を目標に行動を始めた。

CSブランドオリジナルゆかたの開発をはじめ、介護看護用品、介護衣料、インテリア商品など多岐にわたるさまざまな商品の試作に挑戦している。中でも、CSブランドオリジナルゆかたは、素材そのものも特別な原料や加工もので、日本古来の伝統技術「注染」で染め上げながらもモダンなデザインの逸品である。これらの開発商品を直接小売り業へ販売することも始めた。「創ったら売る」しかしこれはなかなか難しい。カタログを作り、皆が営業して回る。在庫管理から価格設定などグループとして意見を一つにまとめ進めるのは大変なことだ。しかし着実に、一歩ずつ進歩しているのは間違い無い。早く良い結果が生まれることを期待しながら応援している。

SSS会、CS会はともに同業種の産地内グループであるが、次に挙げるのは異業種によるグループである。「C.F.B」(クリエート・ファッション・Bingo) その名のとおり広島県福山市、いわゆる備後産地に生まれた異業種によるファッション創作グループである。紡績、撚糸、織り、染め、プリント、刺繍、洗い、パターンメーク、縫製、帽子製造、ニット製造と合計11社で構成されたスペシャリスト集団である。「1業種1社で構成、糸から最終商品まで創って売れるグループ」がコンセプトで、'01年1月に発足し、4月から本格的に活動し、デニム素材をベースにした、まだ市場では見た事も無いような凝った商品を創り上げ、12月に開催されたジャパンクリエーション2002にて披露、マスコミからも高い注目を受けている。近い将来、C.F.B.ブランドとして商品を展開、販売する事を目指してがんばっている。

暗い話ばかりの国内繊維産地において、このようなグループが将来の目標に対し、協力しあいがんばっているが、あくまで生産者のグループであり作ることにはプロだが、創作することは出来ないのが極めて辛いところだ。TDAのテキスタイルデザイナーの方々と、産地グループの意欲ある人間がドッキングすれば、今後さまざまな取り組みや商品が生まれるのではないかと思うのである。

